

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

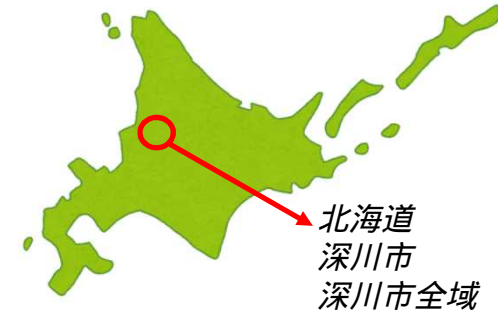
取組の概要

取組の概要 : 水稲中心の作付体系から高収益作物
(にんにく)への作付転換
計画作成主体 : 深川市地域農業再生協議会
対象品目 : にんにく(産地面積:2ha)
主な取組主体 : にんにく生産協議会
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
(10a当たり)
助成金の活用 : 生産支援事業(植付機等)
状況

ポイント

水稲からより収益性の高い「にんにく」へ作付転換を図り、植付・収穫機械のリース導入による省力化と、栽培技術の向上により新たな産地としての定着を図り、販売額の484%以上の増加を実現。

地区の概要



産地の現状と目標

現状:H27年度

作付面積:0.0ha
農家戸数:0戸
販売額:89千円/10a(水稲)

目標:H30年度

作付面積:2.0ha
農家戸数:10戸
販売額:520千円/10a



推進体制

地域の関係者(深川市、JAきたそらち、空知農業改良普及センター北空知支所等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

品質・収量向上のための栽培技術の普及・確立に向けた栽培マニュアルを作成するほか、栽培講習会を開催。

道・市町村単独事業

新規作物である「にんにく」の導入促進を図るため、市単独事業として、新規作付者に対する種子代助成を実施。

事業効果

水稲から作付転換する高収益作物「にんにく」の植付・収穫機械のリース導入により、生産性の向上や収益力の増大が可能となる。併せて、栽培技術の普及・確立により販売額の増加と農業所得の増大につながり、「にんにく」一大産地化を形成。

～ にんにくの販売額 ～

